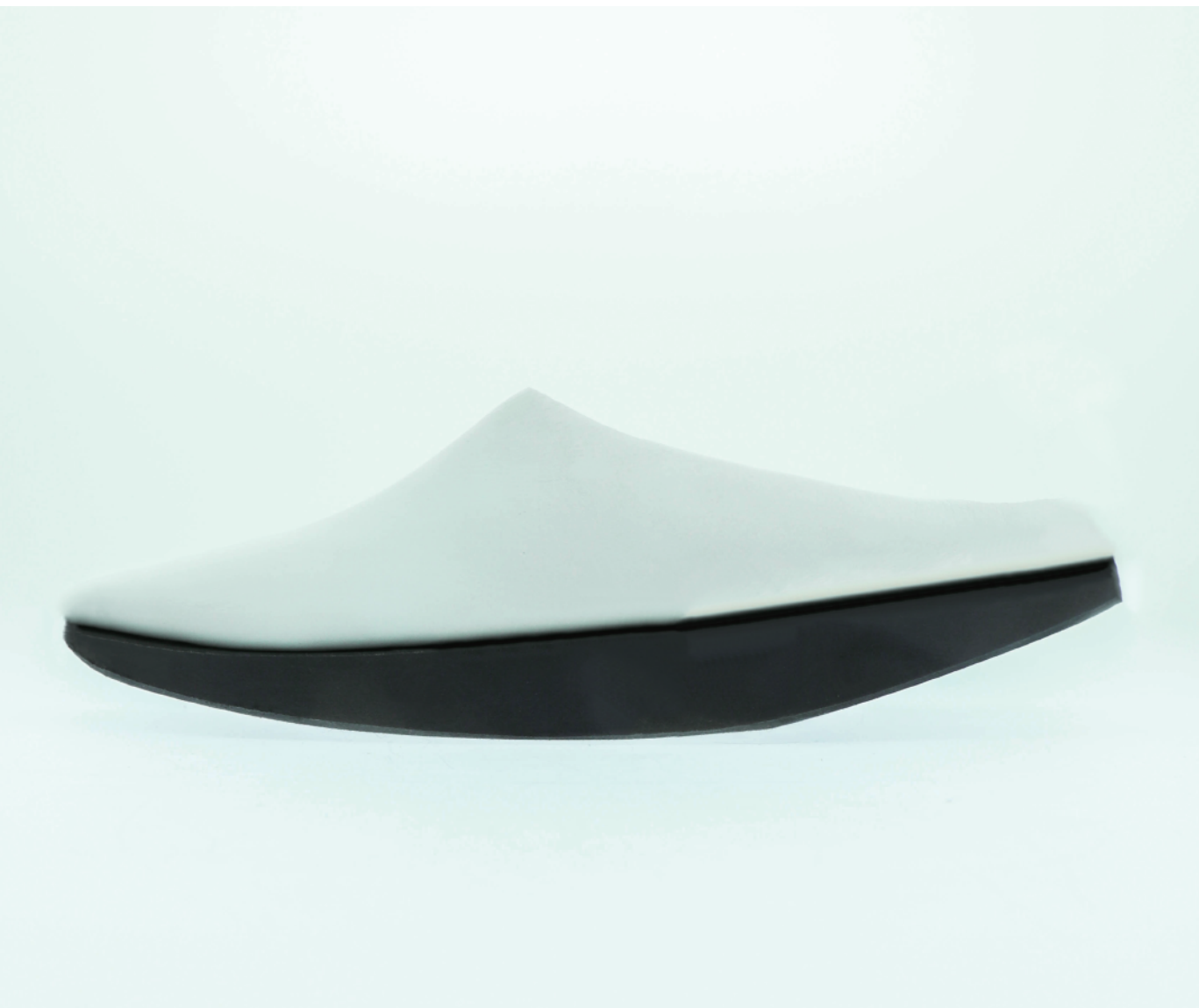


# 高齢者のすり足歩行による転倒リスクを下げる院内シューズの提案

A Slipper That Reduces Falls Amongst Elderly People

志村 優

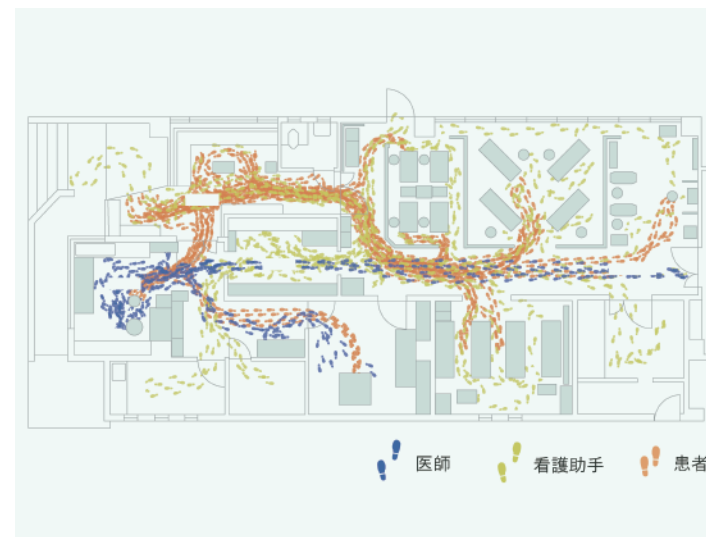


## つまづきやすいカタチを改善する

リハビリテーション外来に訪れる患者の多くは高齢者であり、院内の小さな段差につまずく様子が見られた。つまづきは転倒の一番の原因であり、既存のスリッパの形状が転倒リスクをより高めていると考えた。そこで足元から院内環境の改善を目指し、すり足歩行の高齢者が転倒しづらくなるフットウェアを提案する。

## Improving The Design Of Slippers

Many of those who visit rehabilitation clinics are elderly and are often observed tripping on even the smallest of steps. In order to improve the hospital environment, I propose a new type of footwear that makes elderly people less likely to fall over.

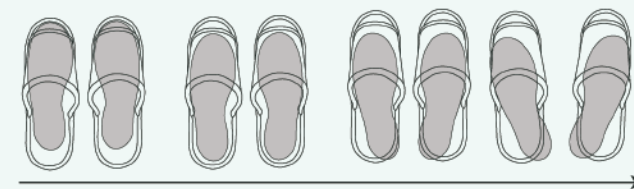
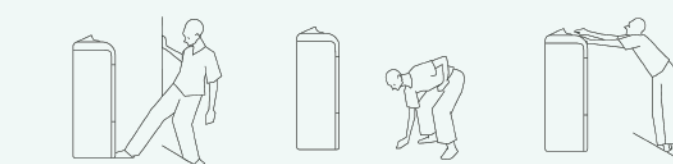


## スリッパを履く動作 / 脱ぐ動作の観察

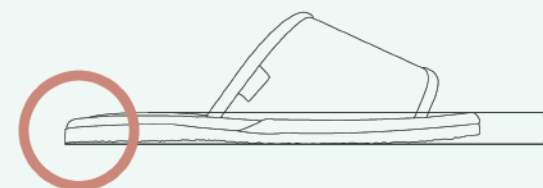
### 履く



### 脱ぐ



年齢層があがるにつれてスリッパの先につま先を  
詰めて履いている人が少なくなっていく



## 足元の安全をデザインする

実際に病院へ足を運び院内を見学した。1日の院内動線を観察し、僅かな段差につまづく高齢者を目にしたことがきっかけで、まずは患者自身の足元の安全をデザインすることが最優先ではないかと考えた。

## 観察と検証

スリッパを履いている患者の様子だけでなく、スリッパを脱ぎ履きする動作も観察した。高齢者にとって、屈んでスリッパを取り出したり脱いだスリッパを手を持つのはきつい動作である。近くの棚を手で押さえて体のバランスが崩れるのを防止したり看護助手に手伝ってもらった場面も見受けられた。

## 仮説と検証

スリッパを利用する患者の様子を観察し、加齢による筋力の低下ですり足歩行になってしまう高齢者にとって、踵を覆うものが一切なくソールの厚さも均一な従来のスリッパでは、歩行動作を難しくしているのではないかと仮説を立てた。ソールやアッパー形状の工夫でそれらを解決できないか検証を重ね、最終的に「つまづきにくく踏み出しやすい、歩きやすく脱げにくいカタチ」を目指した。従来のスリッパよりもつま先部分に角度をつけ、アッパーを踵までつなげることで安全かつ快適な院内環境を提供する。